

旭民報

2011年
8月17日
=再刊=
第524号

=連絡先=

発行 日本共産党尾張旭市委員会
〒0561525 58994 514011
旭民報 090226672884
さかきぼり社 090226672884

「ごみ有料化やむなし？」

ごみの減量をさらに図るために、ごみの有料化は避けられない。有料化は全国的な流れ。

「もう少し先の話」という前置きが付くものの、他党派議員や担当課職員から、有料化やむなしの声がチラチラと聞こえてきます。

「ごみ減量に努力している人と、全く無頓着な人」とで、処理費用の負担が同じでは公平性に欠ける。」ごみ有料化を推進する方の論拠です。

全国的な流れと言っても、市町村合併で自治体数が減り、有料化を実施する自治体がそのままなら、比率としては増加します。財政力の弱い自治体を実施する傾向にあるようにも見えます。実際には財源確保の一環ではないのでしょうか？

反論材料を考えてみましょう。

有料化の前に住民参加で十分な議論が必要

日本共産党の09年衆院選政策では『ごみの発生を設計・生産段階から削減するためにはOEC Dも勧告している「拡大生産者責任」の立場で抜本的に見直すことが必要』とした上で、ごみの有料化について以下のように言っています。

『各地で家庭ごみの有料化が行政の側から提案されていますが、住民への有料化の押し付けでは、ごみ問題は解決しません。すでに有料化した自治体でも、当初はごみの量が減り「減量効果」があるといわれましたが、その後にはまた増えだし「お金をいせば、ごみをいくら出して自治体で処理するのは当然だ」という意識が生まれたりするなど、ごみの減量が進まない例も出ています。』

尾張旭市がごみ処理に支出している費用は約6億円（H23年予算・清掃費から、し尿処理関係を除いた額）ですが、ごみ減量ができれば、この費用も圧縮できます。製品が捨てられたときの回収・処理費用をメーカーが負担する「拡大生産者責任」を実施させるには、政府の姿勢を変えさせなければならず、まだまだ時間がかかりそうです。ごみ処理の自治体

ごみの有料化だのみでは、ごみ削減への住民の意識の形成とはなりません。住民がごみになるものを買わない、使わない、出さない、分別を徹底するなど、住民の意識・取り組みの向上、自治体と住民の協力が欠かせません。ごみの有料化問題は、一方的な住民への押し付けでなく、住民も参加して十分な議論を行うべきです。』

負担を減らして、本来の税金の使い道、福祉や教育など市民生活を豊かにする費用に充ててゆければと思います。かと言って、ごみ有料化の効果が薄ければ本末転倒です。ごみ減量の推進などに取り組んできた、循環型社会推進会議の方から「京都の有料化の取組みが優れている」と聞いて、どの程度のものか？比較するべく環境省の「一般廃棄物処理実態調査結果」から資料を作成してみました。

有料化した京都では

京都市がごみ有料化を始めた（指定袋45Lサイズ10枚450円）のが06年10月です。

この間どれだけごみが減少したのかを見ると、05年から09年にかけて、1人1日あたり▲83g、

同時期の尾張旭市では▲59g、

名古屋市▲68g、

瀬戸市▲37g、

長久手町▲111g、

日進市▲61g。

東郷町▲94g。

みよし市▲52g。です。

全国統計では▲73gです。すから、京都市のごみ減少を有料化によるものだと言うには、苦しい解釈に思えます。

京都市の数値を見て、資源ごみや集団回収が愛知県内の自治体と比べ

自治体名: 京都市

年度	人口	資源	燃焼	一般	粗大	資源	団体回収	その他	総量	削減	削減率
H13 (2010)	1,451,825	3,851	20,106	0	0	6,507	13,475	0	34,989	5,074	7.35%
H12 (2009)	1,451,825	553	542	0	3	2	35	1	1,633	13,4	8.2%
H11 (2008)	1,451,825	3,137	28,849	0	0	6,159	13,288	0	29,435	5,044	17.1%
H10 (2007)	1,451,825	552	540	0	3	1	35	1	1,633	13,4	8.2%
H09 (2006)	1,451,825	2,003	20,025	0	0	6,174	13,447	0	29,752	3,139	10.5%
H08 (2005)	1,451,825	552	540	0	3	1	35	1	1,633	13,4	8.2%
H07 (2004)	1,451,825	2,309	20,200	0	0	6,200	13,300	0	30,000	3,200	10.7%
H06 (2003)	1,451,825	552	540	0	3	1	35	1	1,633	13,4	8.2%
H13 (2010)	1,451,825	2,215	22,849	0	0	6,100	13,350	0	28,514	3,385	11.9%
H12 (2009)	1,451,825	552	540	0	3	1	35	1	1,633	13,4	8.2%
H11 (2008)	1,451,825	2,507	21,640	0	0	6,154	13,307	0	29,011	3,829	13.2%
H10 (2007)	1,451,825	552	540	0	3	1	35	1	1,633	13,4	8.2%
H09 (2006)	1,451,825	2,507	21,640	0	0	6,154	13,307	0	29,011	3,829	13.2%
H08 (2005)	1,451,825	552	540	0	3	1	35	1	1,633	13,4	8.2%
H07 (2004)	1,451,825	2,507	21,640	0	0	6,154	13,307	0	29,011	3,829	13.2%
H06 (2003)	1,451,825	552	540	0	3	1	35	1	1,633	13,4	8.2%

自治体名: 尾張旭市

年度	人口	資源	燃焼	一般	粗大	資源	団体回収	その他	総量	削減	削減率
H13 (2010)	7,2956	245	0	1,787	0	35	1,277	3,069	5,179	3,904	21.2%
H12 (2009)	7,2956	828	0	626	0	2	64	1,518	2,936	11,7	4.0%
H11 (2008)	7,2956	2,400	0	1,303	0	36	313	4,052	8,112	3,199	24.5%
H10 (2007)	7,2956	583	0	1,208	0	4	65	1,79	3,55	1,59	4.5%
H09 (2006)	7,2956	241	0	1,275	0	25	250	3,80	5,57	3,14	23.3%
H08 (2005)	7,2956	0	0	32	0	3	14	121	167	1,07	6.4%
H07 (2004)	7,2956	244	0	1,541	0	37	477	3,430	5,795	1,158	20.0%
H06 (2003)	7,2956	640	0	354	0	4	15	171	1,184	1,378	11.6%
H05 (2002)	7,2956	1,000	0	1,200	0	20	20	3,000	5,420	3,200	59.1%
H04 (2001)	7,2956	814	0	50	0	3	21	1,8	1,038	1,307	12.6%
H03 (2000)	7,2956	2,384	0	1,303	0	27	22	3,333	5,046	3,000	59.5%
H02 (1999)	7,2956	803	0	383	0	5	21	1,06	1,212	1,500	12.4%
H01 (1998)	7,2956	2,284	0	1,517	0	29	22	3,333	5,046	2,900	57.5%
H00 (1997)	7,2956	772	0	514	0	2	14	1,0	1,288	1,500	11.6%

尾張旭市も同様のレイアウトで作成しているが、政府統計では人口を（おそらく）10月1日人口としているのに対し、市統計では年度末人口に外国人人口を加えている。また、市作成の表では資源ごみに団体回収を合算し、07年以降さらに新聞店による回収（政府統計には現れない約400t/年）を加えている。市統計と数値が異なる主因である。

	京都市	名古屋市	尾張旭市	瀬戸市	長久手町	日進市	東郷町	みよし市
紙類	10965	53268	60108	45401	48484	51985	39749	40019
紙パック	65	260	261	131	616	489	471	483
紙製容器包装	0	5225	0	0	0	38	991	0
金属類	2661	5346	8195	9462	9220	8650	8872	7753
ガラス類	3964	7750	6817	6812	6838	6368	2652	4154
ペットボトル	1607	3175	2160	2011	2321	2332	867	2005
白色トレイ	0	0	0	0	0	25	74	125
容器包装プラ	6042	12954	6568	0	6510	10104	1214	1898
プラスチック類	0	0	0	0	0	0	0	0
布類	557	1262	1589	2813	2136	2946	1883	1844
肥料	0	0	0	0	0	0	0	72
飼料	591	0	0	0	0	0	0	2740
溶融スラグ	0	12939	0	0	0	0	0	0
山元還元	0	168	0	0	0	0	0	0
廃食用油	116	0	12	23	0	138	0	125
その他	7183	8	186	301	82	1341	1784	1397
合計	33752	102355	85896	66953	76207	84415	58558	62616

京都市は、紙類の資源化が名古屋圏の1/4～1/6程度。いくらなんでも違いすぎます。代わりに「その他」が年間7kg。尾張旭市で「その他」に分類されているのは乾電池ですが、全国統計では「その他」が何であるのかは読み取れませ



異様に少ないことがわかります。表右端の資源化率は家庭系のみがどれだけリサイクルに回ったかを示しますが、京都市はこれでも低く理解に苦しみます。このため資源ごみの組成を見る必要を感じ、さらに作成したのが上表です。自治体ごとの表では、1人1日あたり排出量(g)を経年で算出していますが、この表では、09年の1人1年あたりの資源化量をg単位で算出しています。直接資源化量、施設資源化量、集回収量の合算です。

上の表を見ると、尾張旭市は「紙類」の資源化が高水準なのに対し「布類」が他市町と比べて、少ないことがわかります。

ちり紙交換が今だ健在であること、自治体が実施状況を把握していない(だから資源化率が計算できない)こと。に驚きましたが、京都市が優れているのは有料化の取組みではなく、住民や地域が脈々と続けてきた集団回収の取組みにあるのだと思います。

京都市の「紙類」の少なさが気になる、京都市のホームペーシを見てみました。京都市のホームページには「京都市内では、紙類のうち、新聞、雑誌、段ボールなどの古紙類は、従来、自治会や町内会、PTA等の団体が自主的に実施してきた集団回収に加え、ちり紙交換などの民間による回収活動などによりリサイクルが図られています。」とあり、さらに「京都市では実施状況を把握していません。」とあります。

自治体名: 名古屋市

年度 (西暦)	人口 (人)	家庭系							事業系			資源化率
		総量	混合ごみ	可燃ごみ	不燃ごみ	粗大ごみ	資源ごみ	団体回収	その他	総量	合計	
H15 (2003)	2183516	714650	0	423628	67336	13506	82601	127308	3302	281222	1006372	23.38%
H16 (2004)	2202111	665472	0	362537	82244	2258	84923	122143	3373	276403	936879	21.12%
H17 (2005)	2215031	621774	0	363501	81257	8695	86407	136288	2936	245778	995752	19.73%
H18 (2006)	2223410	663537	0	383175	69725	2662	86701	135601	200	243457	927037	22.48%
H19 (2007)	2160425	669757	0	373432	8107	9835	86338	133825	2325	222722	992779	22.84%
H20 (2008)	2181678	645111	0	373230	5467	8502	83708	126817	232	222445	871256	22.4%
H21 (2009)	2177398	615158	0	370757	47017	7694	71978	113531	2352	204859	820668	20.15%

自治体名: 瀬戸市

年度 (西暦)	人口 (人)	家庭系							事業系			資源化率
		総量	混合ごみ	可燃ごみ	不燃ごみ	粗大ごみ	資源ごみ	団体回収	その他	総量	合計	
H15 (2003)	152004	41475	0	21485	405	1650	8585	3281	0	11864	53353	23.6%
H16 (2004)	132173	43402	0	28236	1140	1134	5637	2036	0	11128	37330	21.58%
H17 (2005)	128675	39675	0	29410	1137	1094	3723	2528	12	11053	50928	23.26%
H18 (2006)	128703	33622	0	28422	1543	825	3935	2017	12	11435	37257	22.48%
H19 (2007)	128995	39134	0	27820	1420	972	3917	1638	26	11635	50799	22.48%
H20 (2008)	128550	37612	0	26887	1457	826	3456	1828	26	11103	46715	22.58%
H21 (2009)	129777	38428	0	26591	1192	1839	7610	1724	48	10244	48972	24.23%

こうした分析を行ってさらに減量化を進めるなど、有料化を言う前にやるべきことが、まだまだありそうです。

